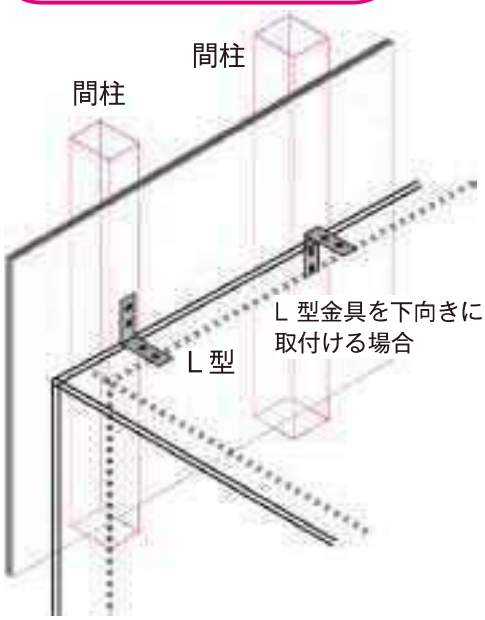
家庭用家具の転倒･落下･移動防止対策

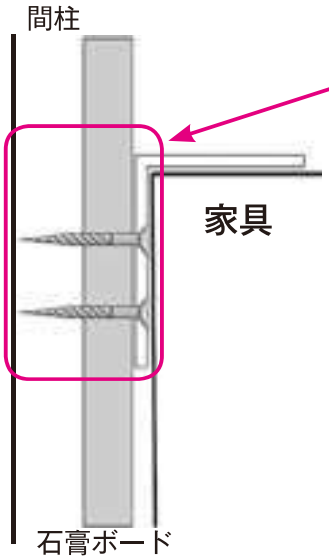
● 壁に固定する場合

Point

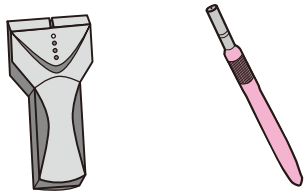
○　転倒・落下・移動防止対策の基本は、**ネジによる固定**です。その場合、家具を固定する対象は、壁下地の柱、間柱、胴縁等とします。
○　木ネジは長めのものを使用し、ネジ頭までしっかりねじ込みます。
○　付け鴨居は、強度が確認された場合、これに固定することが可能です。
○　上下２段式の家具など、やむを得ず積み重ねる場合は金具などで連結します。

Ｌ型金具の取付け



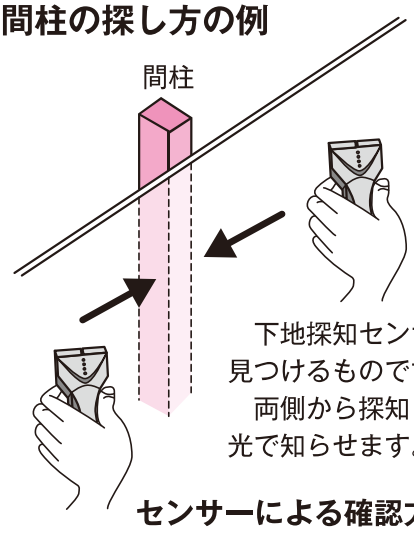


壁にＬ型金具を用いて固定するには、**壁の下地材に取付けることが大切です**。
下地材の位置は、下地探知用センサー等の機器、市販の専用プッシュピンといった器具、音による打診により判断できます。



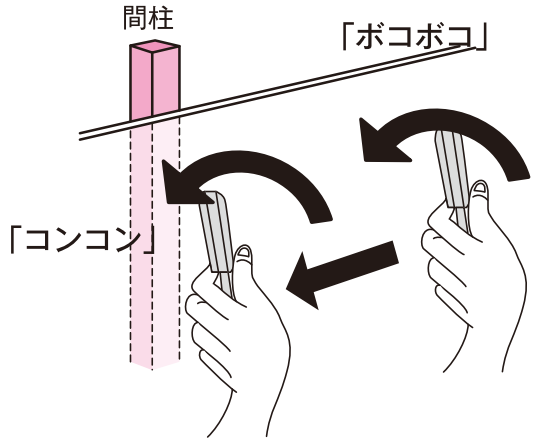
下地探知用センサー・プッシュピン

間柱の探し方の例



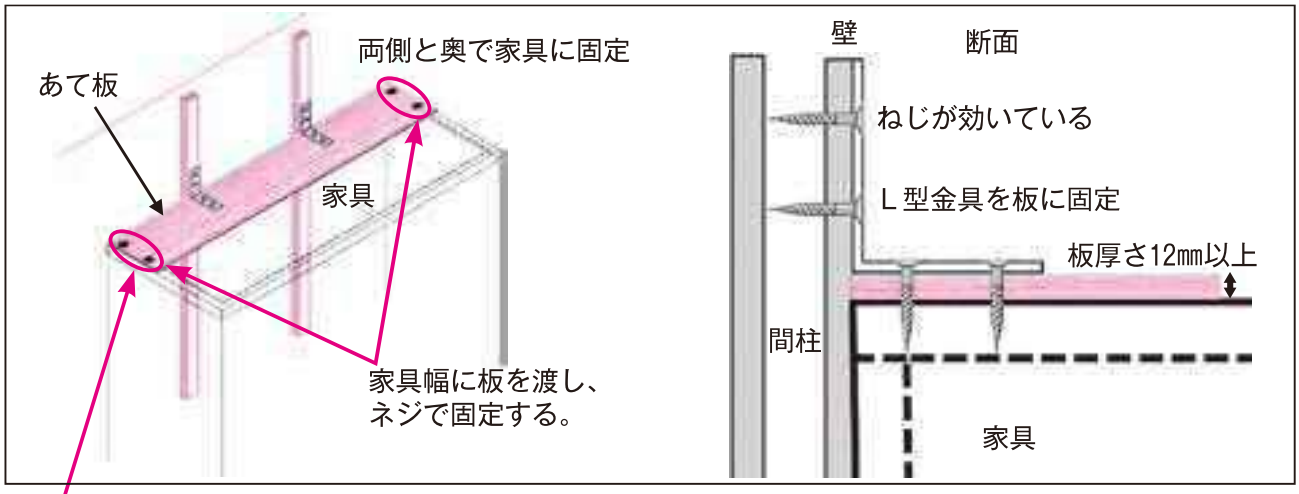
下地探知センサーは、間柱の端を見つけるものです。
両側から探知し、見つけると音と光で知らせます。

センサーによる確認方法



ドライバー等で打診

L型金具の取付け（家具の天板に強度がない場合）



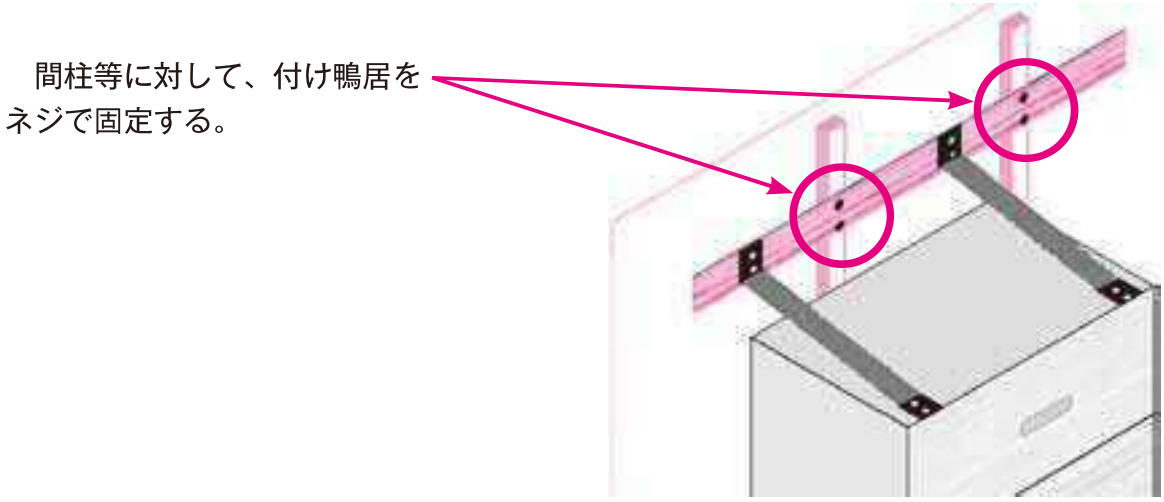
家具の天板の後ろ側にしっかりとした桟の入っていないものは、**家具の幅全体に板を渡しネジ止めしてから**金具を取付けます。
金具をネジ止めする際には、長めの木ネジを使用して取付けてください。

● 付け鴨居に固定する場合

居室の壁に付け鴨居や長押、横木などがある場合は、ベルト式やチェーン式などの器具を使って固定する方法があります。
従来の木造住宅は、真壁構造が多く、付け鴨居は構造部材の一つで強度がありますが、最近の木造住宅は大壁構造となっており、付け鴨居は石膏ボードに接着されているものが多くなっています。

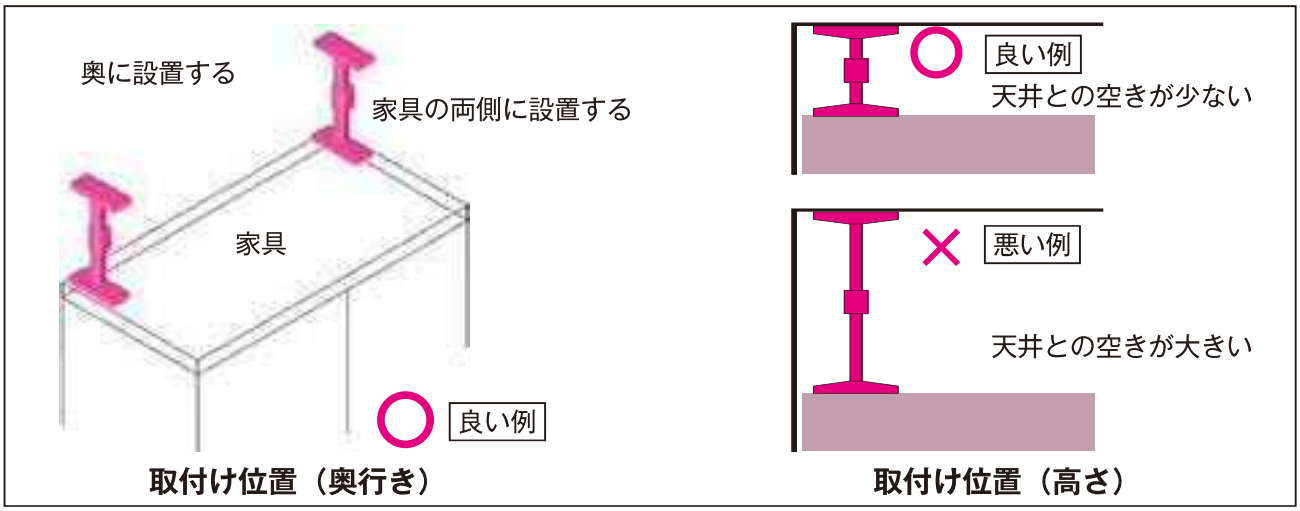
Point

付け鴨居等が石膏ボードに接着剤で付けられている構造の場合は、**付け鴨居等を間柱等に木ネジで止めた上**で、対策器具を取付けます。

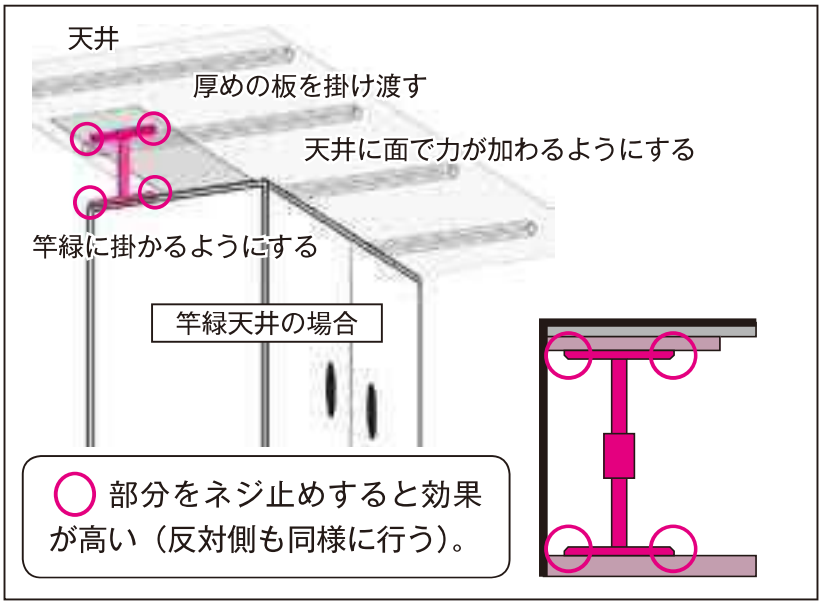


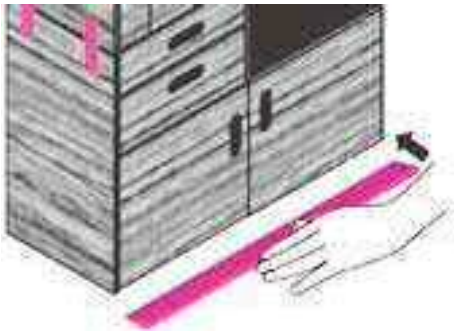
● ポール式器具・ストッパー式器具の取付け方法

壁や柱にネジ止めできない場合、天井との間にポールを突っ張って、固定する方法などがあります。

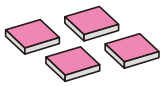


取付け位置（奥行き）　取付け位置（高さ）





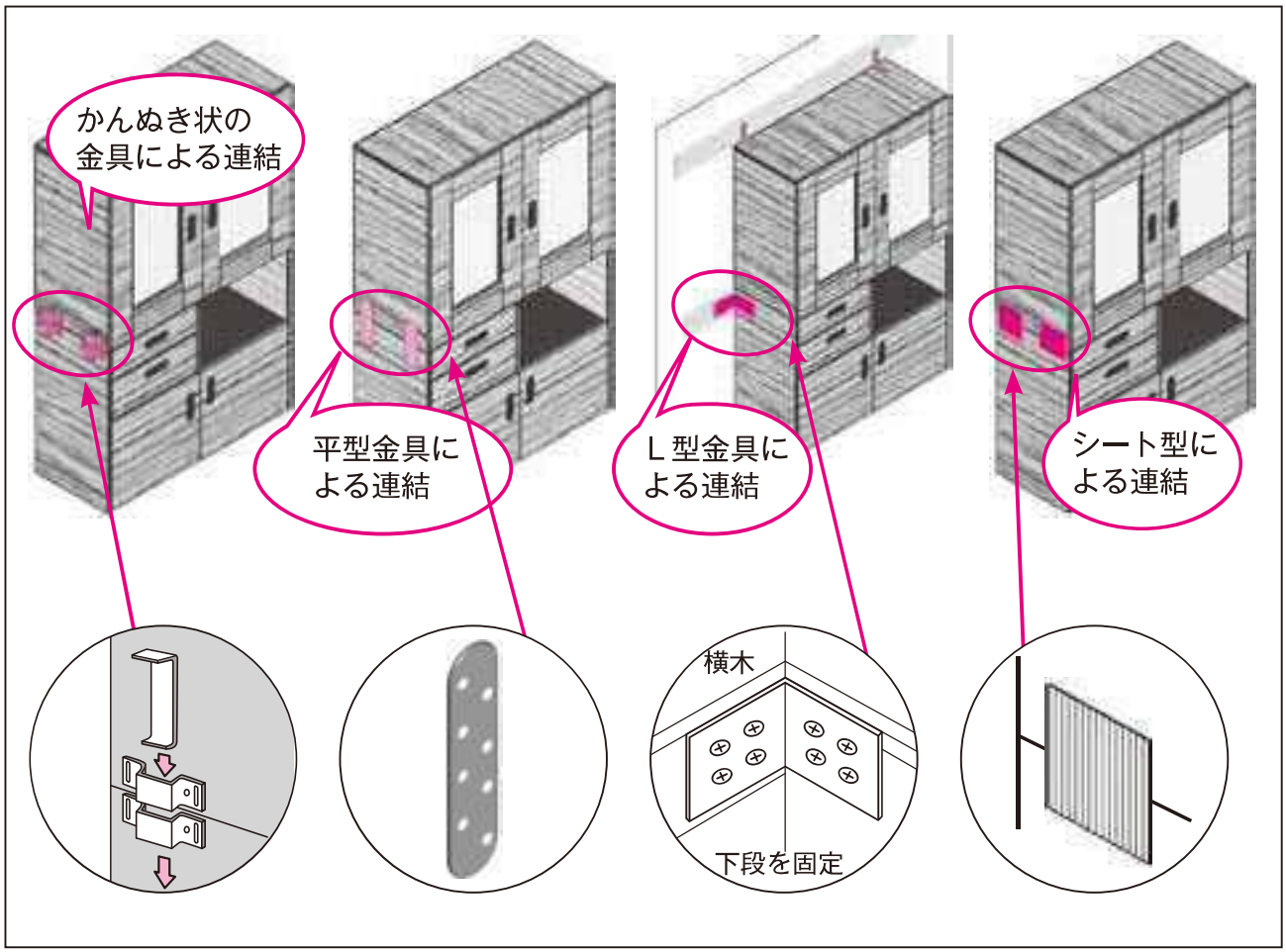
ポール式を使用する場合は、ストッパー式やマット式と併用し、家具の上下に対策を取る。



Point

○　ポール式器具は、家具の**両側の側板部の壁側奥**に設置します。
○　ポール式器具はできるだけ奥に取付けます。
○　ポール式器具を取付ける時は**天井に十分な強度**（マンションのコンクリート天井など）があることを確認します。
○　天井に強度がない場合には、天井側に家具の幅以上の板で補強し、更にポール式と当て板をネジで固定すると効果が高くなります。
○　ポール式器具は奥行きのない家具、天井との間隔が大きい場合には不向きです。
○　ストッパー式器具は家具の端から端まで敷きます。
※　ストッパー式やマット式の単独使用は、大きな家具の場合は一般的に適しません。

● 連結金具の取付け



二段重ねの家具類は、**上下を平型金具等で連結**して一体化したうえで、家具の固定を行います。連結をしない場合は、上段、下段それぞれを横木等に固定します。

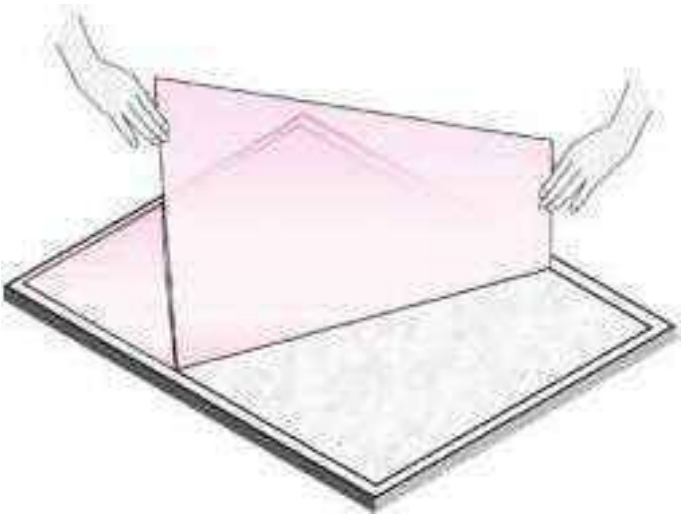
● ガラス飛散防止フィルムの貼り付け

ガラスの破損や収納物の飛び出しを防止するためには、ガラス飛散防止フィルムの貼付が効果的です。

ガラス戸の両面にはることにより飛散防止効果が高くなります。

片面に貼る場合は、外側のガラス面に貼って下さい。

霧吹きなどで、ガラスとフィルムに十分な水を吹きかけて貼付します。



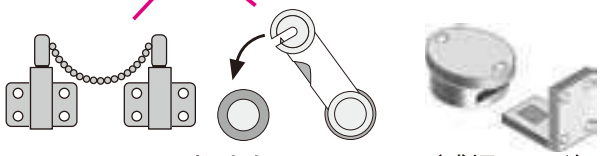
● 扉開放防止器具の取付け

食器棚等は、地震動によって扉が開いた場合、収納物が散乱し、食器類の割れた破片などでけがをする危険性があるので、観音開きの扉には扉開放防止器具を設置します。

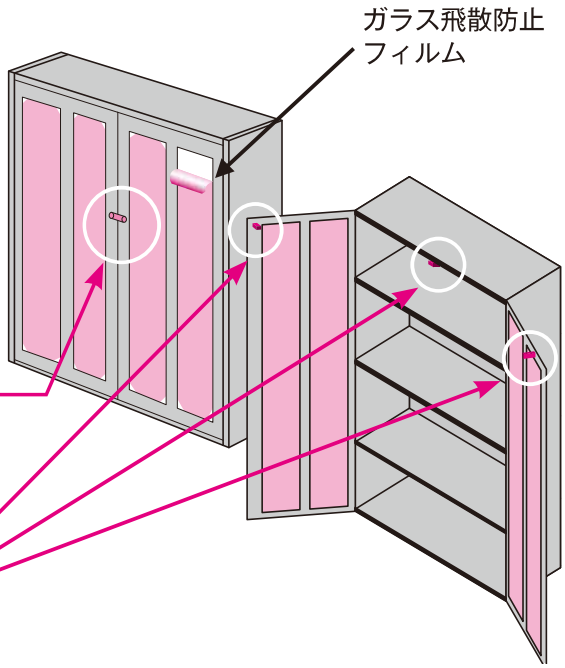
扉開放防止器具の取付け

扉開放防止器具には、粘着タイプやチェーンタイプ、ネジ固定できる掛け金タイプ、感震ラッチなどがあります。

本棚など重量の大きい収納物が入っている場合は、ネジ固定できるものを取付けてください。



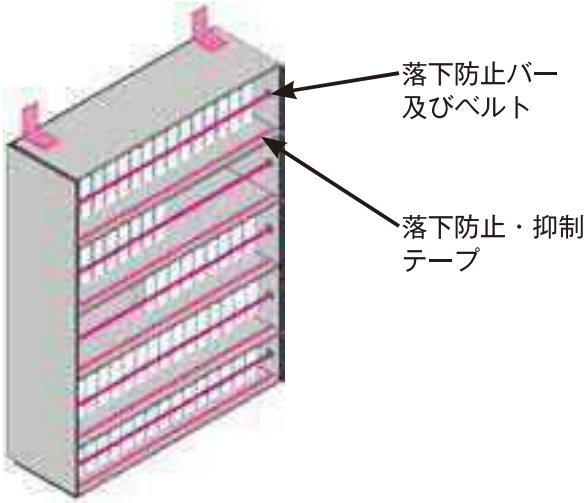
扉開放防止器具　（感振ラッチ）

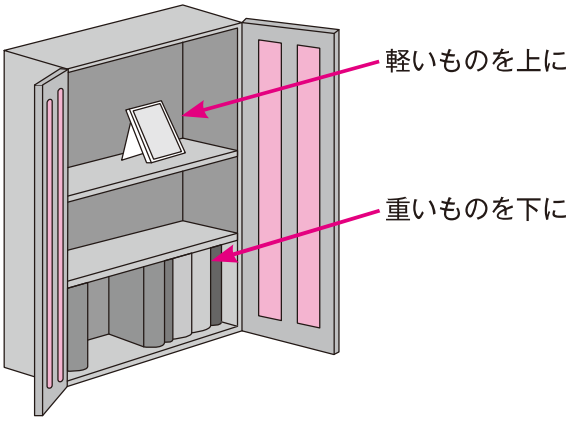


● 書棚等の収容物落下防止

書棚等の収容物が地震により落下することで、落下物が当たりけがをすることや、避難障害となる危険性があるので、転倒防止器具と併せて収容物落下防止器具を設置します。

※器具によっては落下を抑制するだけのものもありますので、取扱説明書等をよく読み取付けを行ってください。



● 収容物の工夫

重いものを下に置くことで、家具の重心を下げ、転倒しにくくします。